

# 岩手県感染症週報

平成28年第40週(10月3日～10月9日)

岩手県感染症情報センター

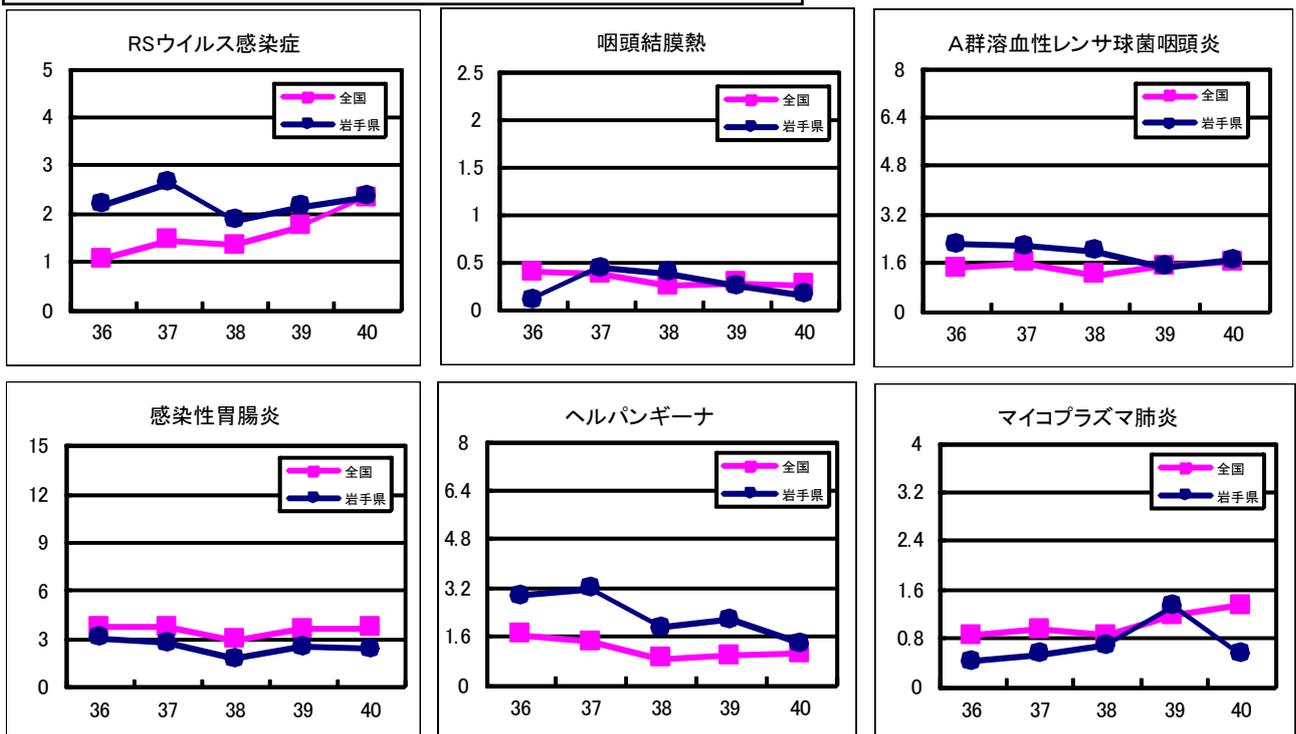
## 第40週の概要

- 1 類感染症 ・ 患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・ 結核の報告が3例ありました。3例とも潜在性結核感染症です。
- 3 類感染症 ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が二戸地区から5例ありました。今年これで48例目です。食中毒予防の3原則（食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける）を守ること、石けんと流水による手洗いを励行し、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐことが重要です。
- 4 類感染症 ・ レジオネラ症の報告が大船渡地区から1例ありました。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)  
 ・ 患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)  
 ・ RSウイルス感染症は、前週より増加しました。特に中部地区で多くなっています。年齢別では2歳以下が9割以上を占めており、初めて感染した場合、細気管支炎や肺炎を併発することがあります。咳やくしゃみ、ウイルスが付着した手指などを介して感染するため、マスクの着用及び咳エチケット、石けんを用いた手洗いが重要です。  
 ・ 溶連菌咽頭炎は、前週より増加し、二戸地区で警報値（定点あたり患者数8人）を超えました。発症時には、発熱や全身倦怠感、咽頭痛などの症状がみられます。治療の際は合併症を防ぐため、10日間程度の抗菌薬の服用が求められます。  
 ・ 台風による被害を受けた地域では、瓦礫や泥の撤去時に感染症に罹患しないように注意が必要です。石けんと流水を用いた手洗いや、作業時にはマスクや手袋を着用することが重要です。ボランティアを計画している方は、感染症の持込や自身の感染に注意が必要です。体調管理に注意し、消毒剤を持参するなど、手指衛生をはじめとした感染予防対策を心がけてください。

水害時の衛生対策と消毒方法について <http://www.pref.iwate.jp/saigaijohou/048398.html>

## 最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		36	37	38	39	40		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0	0.03	0.08	→	
	全国	0.05	0.09	0.12	0.16	0.23		
RSウイルス感染症	岩手県	2.18	2.63	1.85	2.15	2.35	→	☆
	全国	1.06	1.45	1.34	1.73	2.32		
咽頭結膜熱	岩手県	0.1	0.43	0.38	0.25	0.15	→	☆
	全国	0.39	0.37	0.25	0.28	0.26		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.2	2.15	2	1.45	1.7	→	☆☆
	全国	1.44	1.6	1.2	1.5	1.61		
感染性胃腸炎	岩手県	3.05	2.73	1.78	2.48	2.4	→	☆
	全国	3.76	3.71	2.94	3.64	3.69		
水痘	岩手県	0.08	0.1	0.03	0.13	0.13	→	☆
	全国	0.26	0.27	0.26	0.28	0.29		
手足口病	岩手県	0.3	0.45	0.43	0.53	0.55	→	☆
	全国	0.73	0.8	0.79	1.08	1.39		
伝染性紅斑	岩手県	0	0.1	0.03	0.15	0.03	→	
	全国	0.17	0.13	0.1	0.15	0.12		
突発性発疹	岩手県	0.28	0.6	0.35	0.4	0.38	→	☆
	全国	0.55	0.55	0.44	0.49	0.47		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02		
ヘルパンギーナ	岩手県	2.93	3.15	1.88	2.15	1.35	↘	☆
	全国	1.67	1.43	0.88	0.98	1.02		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.55	0.43	0.18	0.63	0.68	→	☆
	全国	0.99	1.07	0.94	1.2	1.11		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.03	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.36	0.29	0.36	0.21	0.29	→	☆
	全国	1	0.96	0.83	1.01	0.97		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.05	0.01	0.03	0.02	0.04		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.06	0.08	0.07	0.07	0.06		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.42	0.53	0.68	1.32	0.53	↘	☆
	全国	0.85	0.95	0.84	1.18	1.33		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.05	0.05	0.05	0	0	→	
	全国	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	1	0		
	全国	5	14	21	13	32		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 36	37	38	39	40	累計	40	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	3 (1)	9 (5)	5 (4)	2 (1)	3 (3)	196 (86)	355	18457
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	8
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	4	101
	腸管出血性大腸菌感染症	6	3	0	1	5	48	65	2997
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	5	46
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	14
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	3	4	308
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	4	229
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	15
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	7
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	3
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	9
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	46
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	1	12
	つつが虫病	0	0	0	0	0	3	1	98
	デング熱	0	0	0	0	0	1	9	289
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	8	193
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	4
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	4	
マラリア	0	0	0	0	0	0	3	43	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	1	7	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	1	2	0	1	1	13	65	1193	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	2	58	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		36	37	38	39	40		40	累計
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	10	9	886
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	1	0	1	0	4	4	214
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	7	16	1143
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	5	5	619
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	11
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	1	139
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	5	6	392
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	21	1114
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	54
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	241
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	36
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	7	12	1969
	水痘 (入院例)	0	0	0	1	0	6	1	230
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	1	0	4	69	3388
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	2	101
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	100
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	43
	風しん	0	0	0	0	0	2	4	111
麻しん	0	0	0	0	0	0	5	144	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	31	

今注目の感染症

マイコプラズマ肺炎

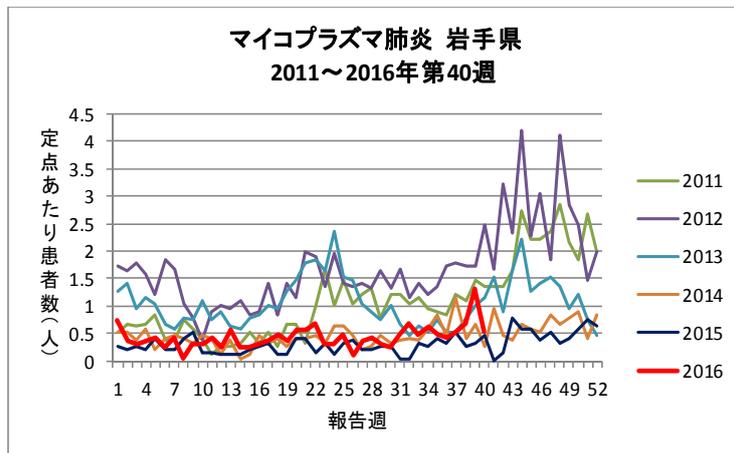
マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマという小型の細菌によって引き起こされる呼吸器感染症です。患者はどの年齢層でも認められますが、特に幼児期・学童期に多く見られます。感染経路は、飛沫及び接触感染であり、潜伏期間は2～3週間です。症状は、発熱や全身倦怠感、本疾患に特徴的な長く続く乾いた咳 (痰を伴わない咳) などがみられます。

マイコプラズマは、細胞壁を持たないため、ペニシリン系やセフェム系などの細胞壁合成阻害の抗菌薬は効果が無く、マクロライド系やテトラサイクリン系の抗菌薬が使用されます。

手洗いやうがい、患者との濃厚接触を避けるといった基本的な予防対策が重要です。一般的に秋から冬にかけて報告数が多くなるので、今後注意が必要です。

※参考 国立感染症研究所 マイコプラズマ肺炎とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/503-mycoplasma-pneumoniae.html>



今注目の感染症

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス (Respiratory Syncytial virus) による呼吸器の感染症です。年齢を問わず、何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。

症状は、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、初めて感染発症した場合は重くなりやすいといわれています。特に乳児期早期 (生後数週間～数か月間) にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

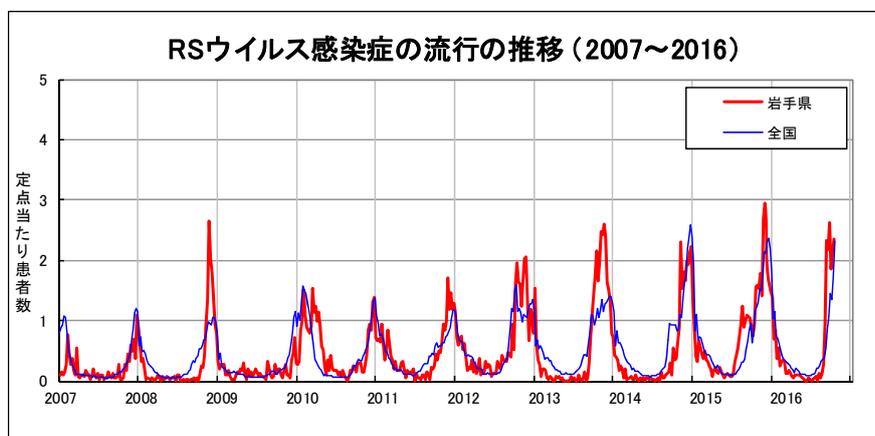
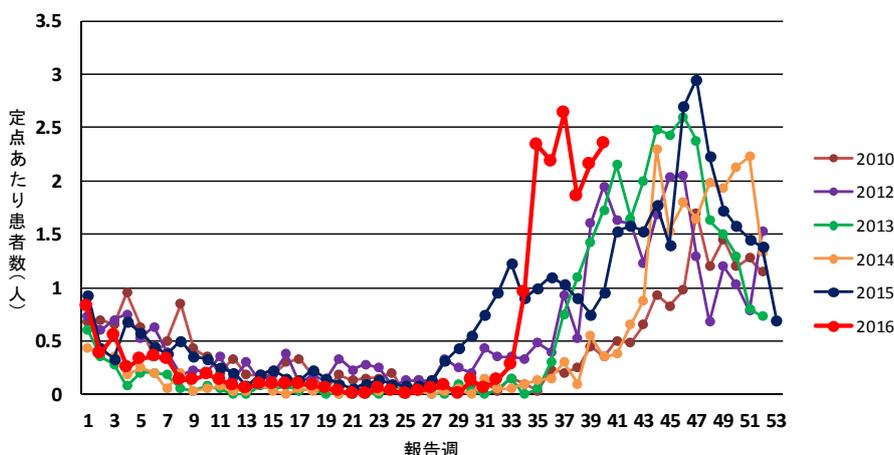
岩手県においては、第40週は県全体の定点あたり患者数は2.35人となりました。地域別では中部地区で多くなっています。例年、秋から冬にかけて流行しますが、今年は早い時期から報告数が増加しています。

感染経路は主に飛沫感染と接触感染です。ウイルスが付いている手指や物品を介した間接的な接触による感染も起こります。石けんと流水による手洗いで、手指衛生を励行することが重要です。

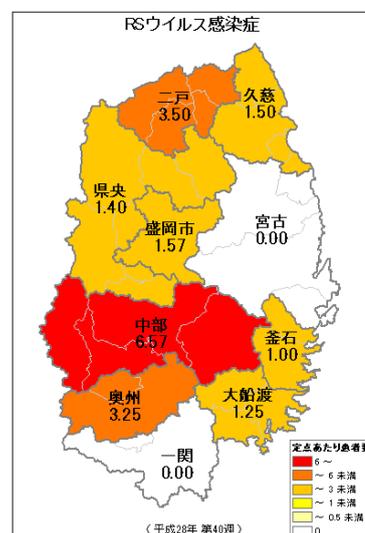
参考 厚生労働省 RSウイルス感染症Q&A

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)

RSウイルス感染症週別患者報告数 岩手県  
2010年～2016年第40週



※RSウイルス感染症は警報値が定められていません。



今注目の感染症 (つづき)

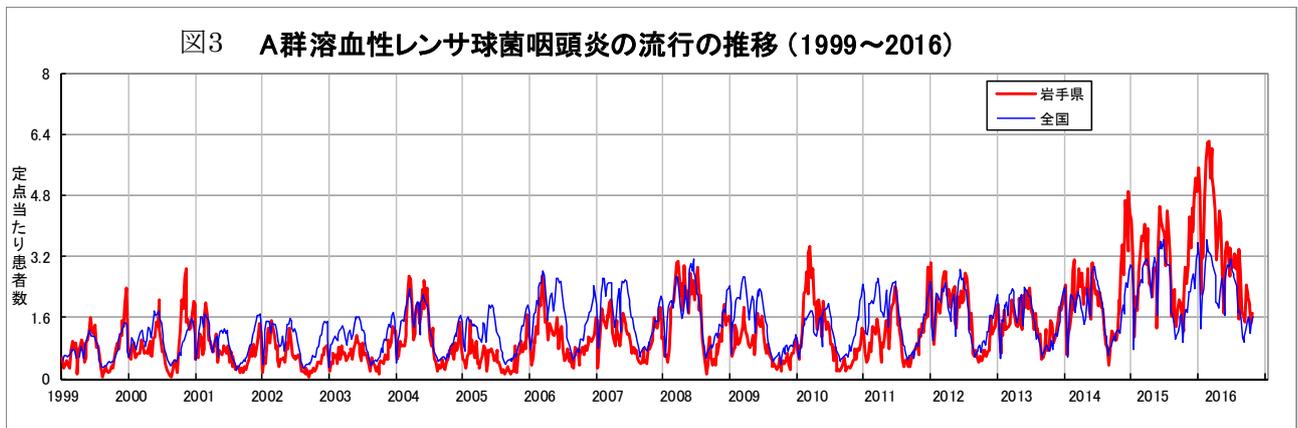
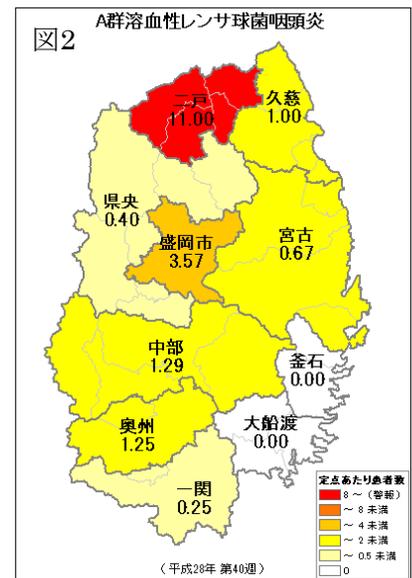
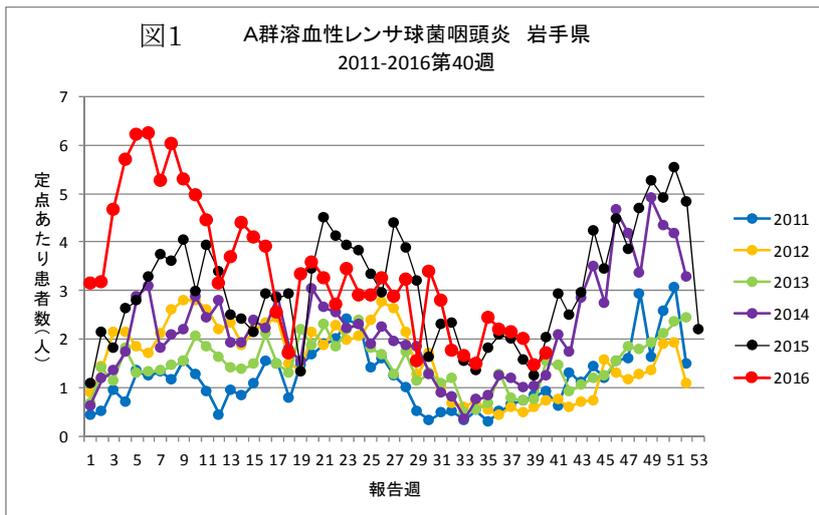
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭炎、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後、急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が重要です。予後良好な疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

予防には、患者との濃厚接触を避けること、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットが重要です。

岩手県での発生状況は、2014年の第41週から、他の年に比較して多い状況が続いています(図3)。2016年の第6週には、県全体の定点あたり患者数6.23人と、調査を開始した平成11年以降で最多の報告数となりました(図1)。その後減少しましたが、例年より報告数が多くなっています。第40週は、二戸地区で警報値(定点あたり患者数8人)を超えました(図2)。今後とも注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>



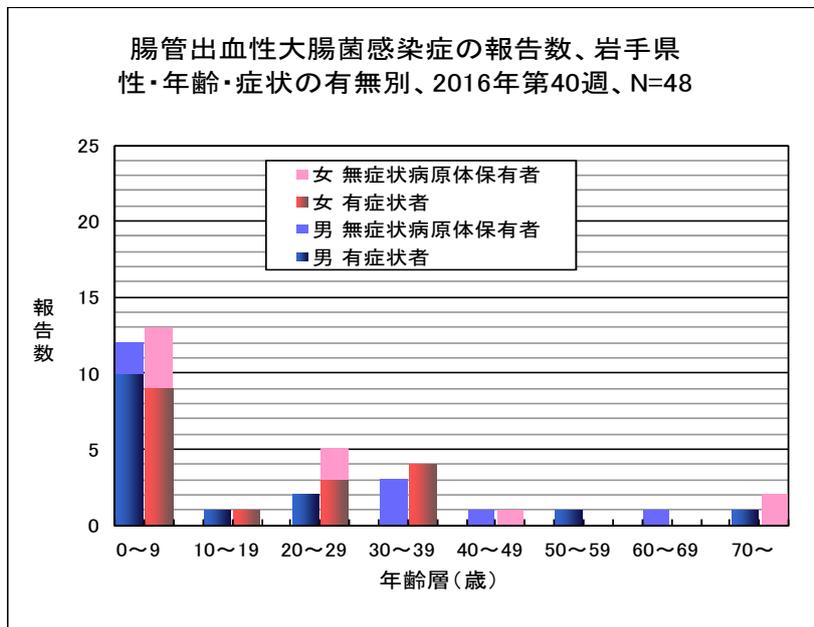
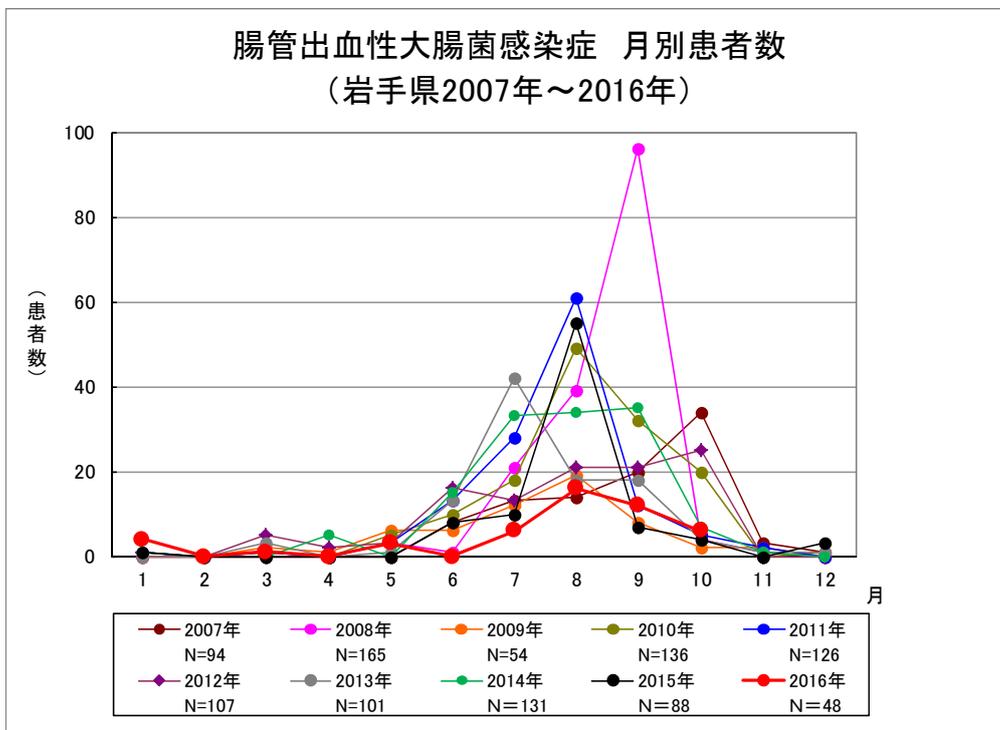
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Verotoxin=VT, またはShiga toxin =Stx と呼ばれている) を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症です。症状は、無症状から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、さらに著しい血便とともに重篤な合併症を起こし死に至るものまで様々です。

岩手県における平成28年の腸管出血性大腸菌感染症は、第40週に二戸地区から5例の報告があり、合計48例になりました。原因となった大腸菌は、O26が18例、O157が12例、O103が8例、O145が3例、O111が3例、O55が1例、O血清型不明が3例でした。年齢層別では、0～9歳が最も多く25例、次いで20～29歳及び30～39歳が7例でした。

予防対策としては、食中毒予防の3原則 (食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける) を徹底し、生肉や加熱不十分な食肉を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐため、排便後や食事の前などには石けんと流水による手洗いを行うことが重要です。



## 病原体検出情報

- ・ヘルパンギーナの患者の咽頭ぬぐい液から、A群コクサッキーウイルス4型を1件検出しました。
- ・不明発疹症及び上気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、エコーウイルス9型を19件、A群コクサッキーウイルス6型を1件、それぞれ検出しました。
- ・上気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、パラインフルエンザウイルス3型を1件、ライノウイルスを1件、それぞれ検出しました。
- ・肺炎の患者の咽頭ぬぐい液から、エコーウイルス9型を1件、ライノウイルスを1件、パラインフルエンザウイルス3型を1件、RSウイルスを1件、それぞれ検出しました。
- ・不明熱の患者の咽頭ぬぐい液から、ヘルペスウイルス6型を2件、ライノウイルスを1件、エコーウイルス9型を1件、それぞれ検出しました。

## 集団感染情報

- ・この週には集団感染の情報はありません。

## 医療機関からの情報

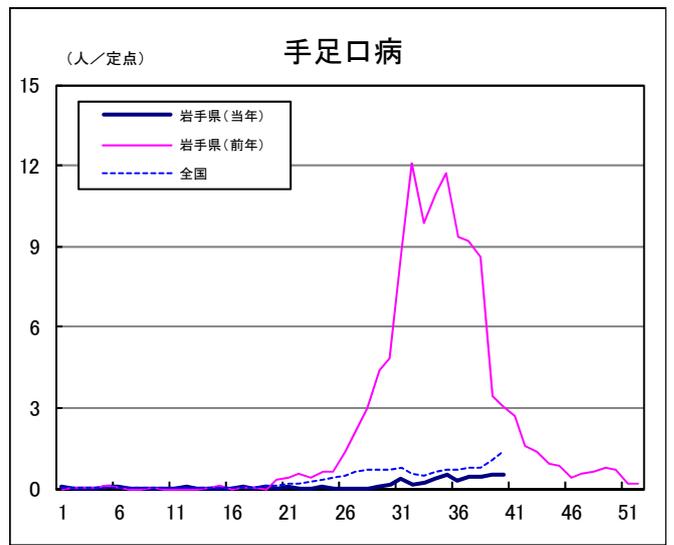
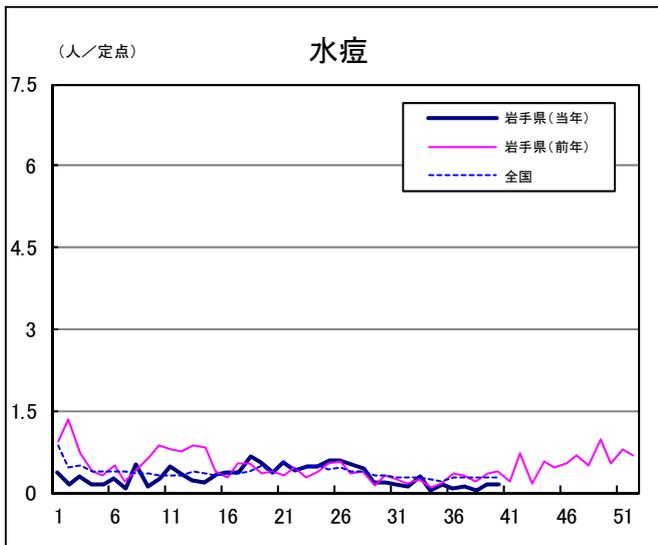
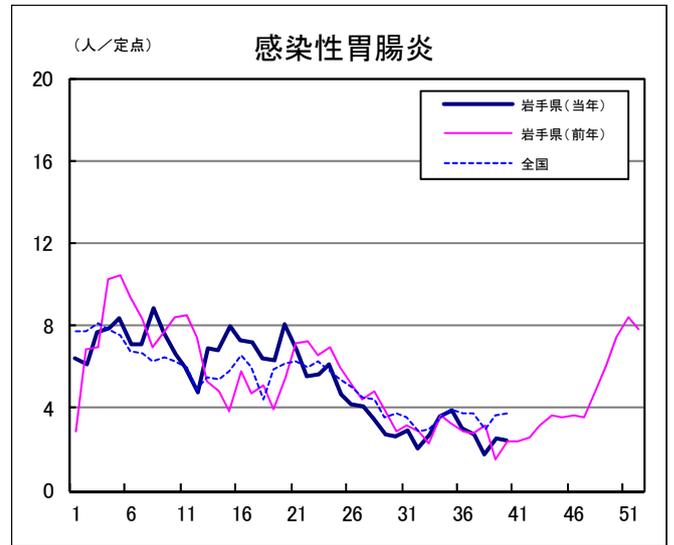
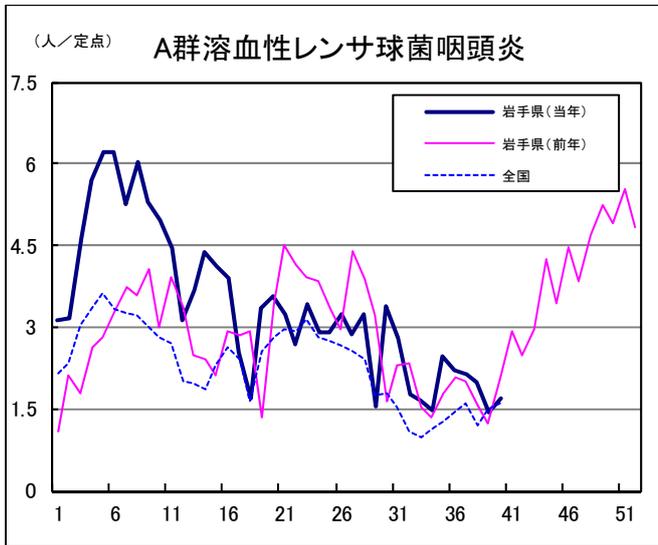
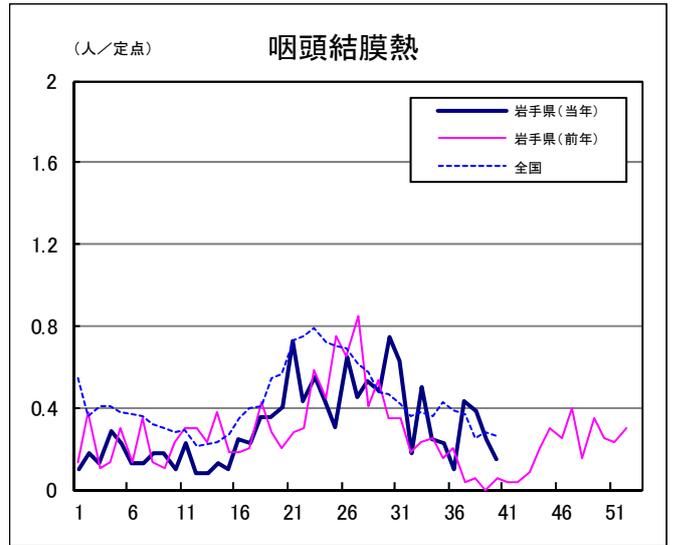
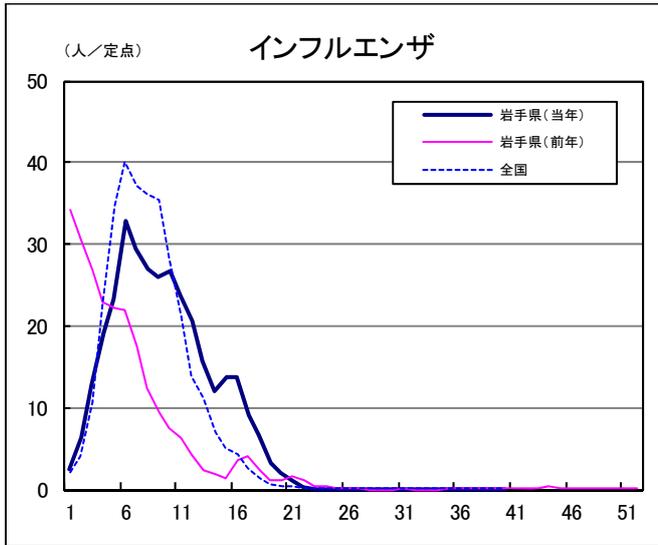
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

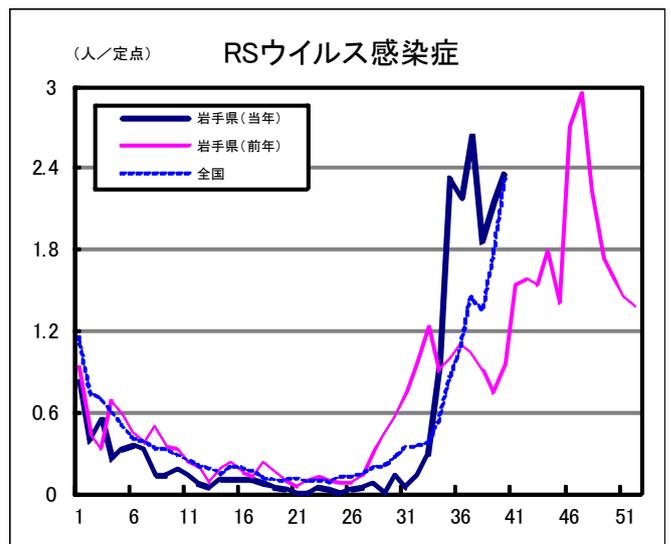
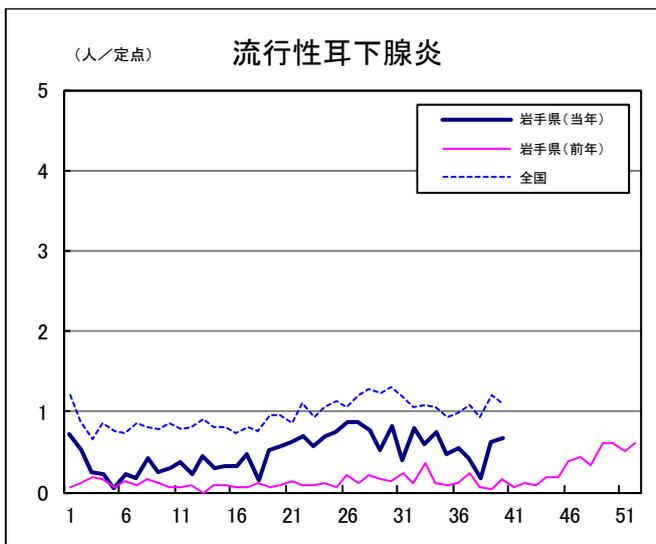
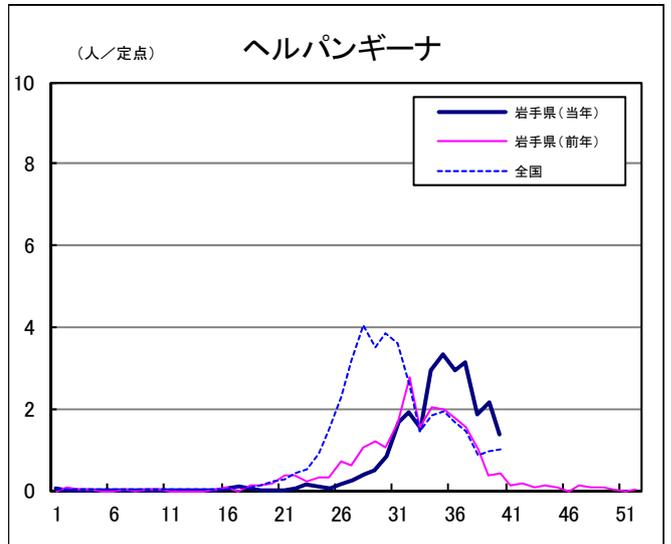
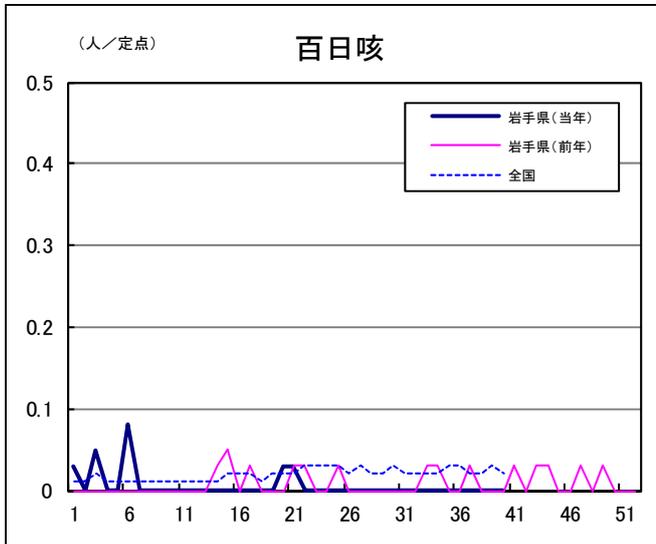
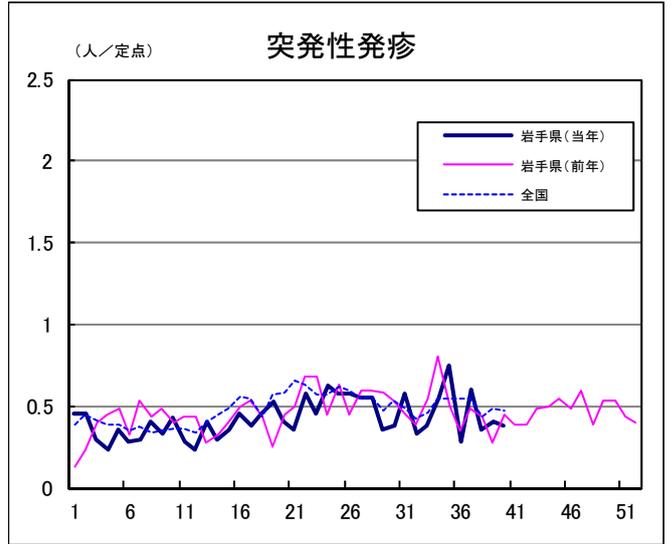
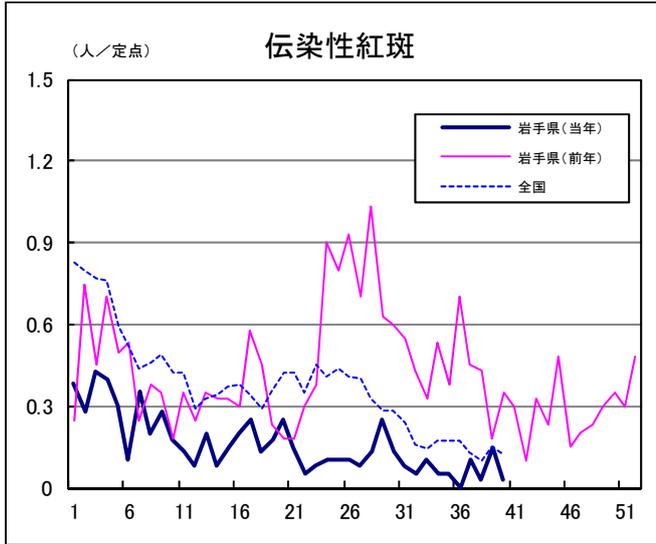
## Q & A

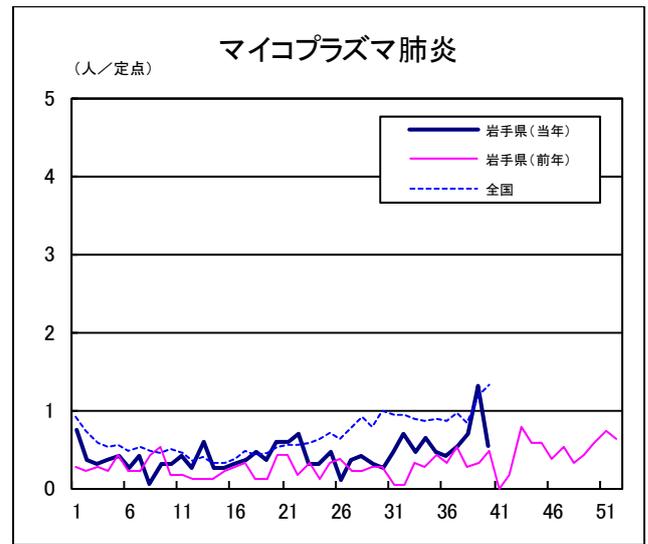
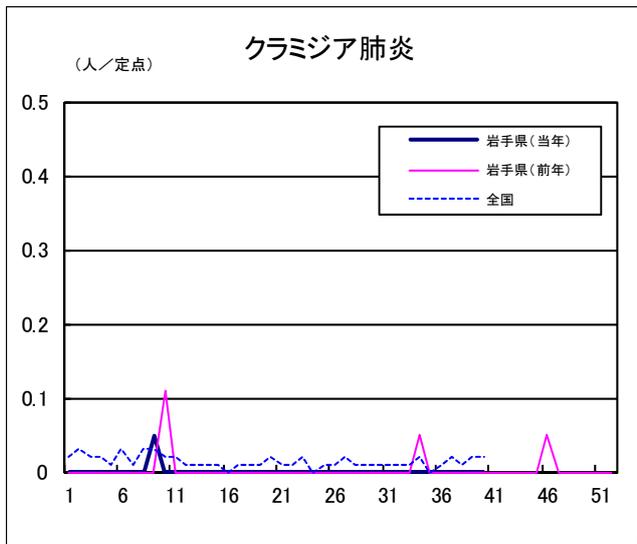
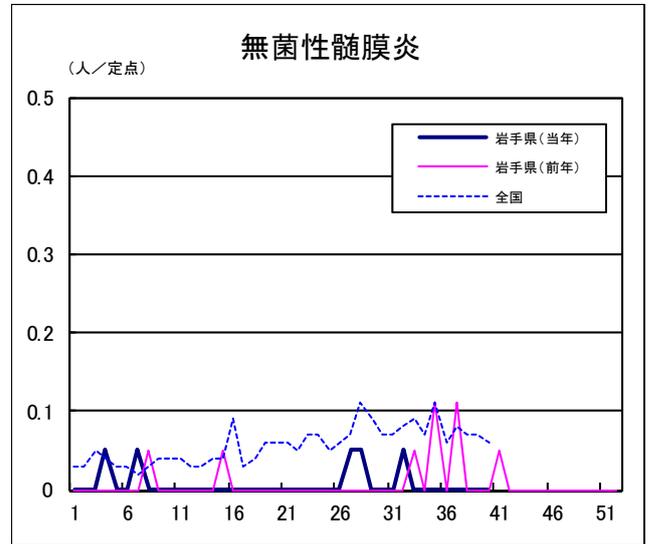
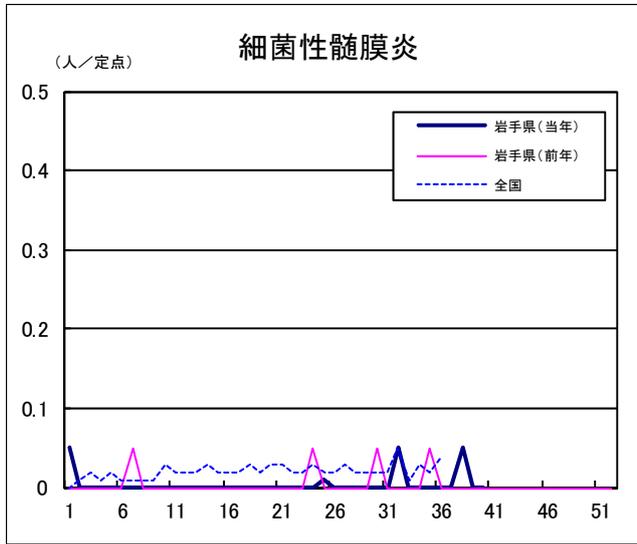
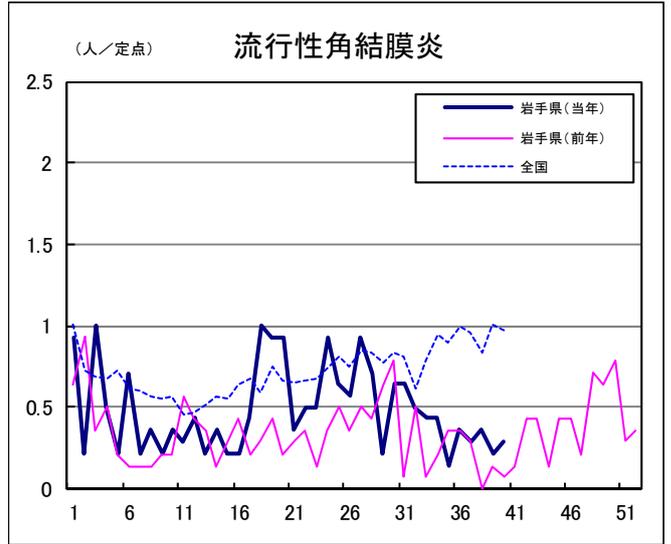
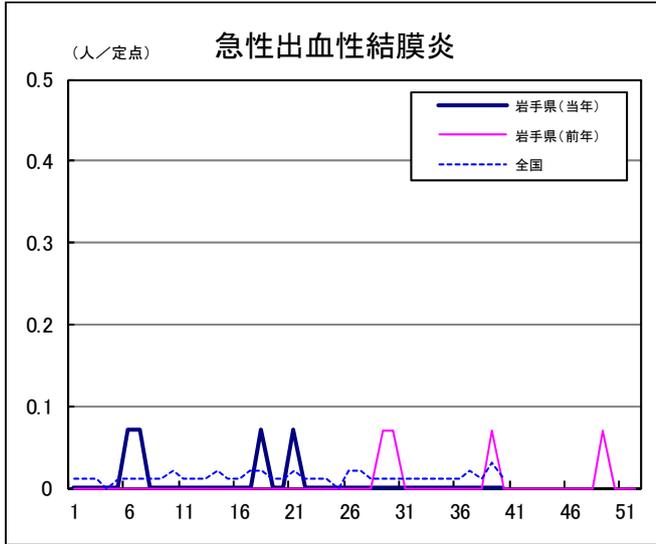
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成28年第40週 平成28年10月14日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>